

東アジアの主要文字

■東アジア一帯には様々な文字がある。失われた文字や現在も使用されている文字を、一枚の地図に書き入れてながめてみると、なかなか壮観である（下図参照）。もちろん、地図上の文字は、ただ並立しているのではない。文字は、互いに系統上の関係の有無によってグループを成している。また系統が異なっても、長年の接触により特徴を共有するものもあり、これもまたグループを成している。



■それと同時に、この地域を大きく眺めると、それぞれの文字を幾つかの主要な構造の中に位置づけることができる。たとえば、

[Ⅰ] 漢字（狭義の漢字。中国語および中国語の祖先を表記した文字）とそれ以外の文字。すなわち“中心と周辺”という構造。

[Ⅱ] 北部のソグド系文字とその南側に位置する漢字。すなわち“南北対立”という構造。なお、ソグド文字は西方よりアジアの北部に持ち込まれ、ウイグル文字、モンゴル文字、満洲文字と改良されながら伝わり、現在の中国新疆ウイグル自治区のシボ族（錫伯族）のシボ文字や中国内蒙古自治区のモンゴル文字となった。これらの文字をソグド系文字と称する。

■もちろん主要な構造はこれだけではない。様々な角度から東アジアの諸文字を眺めることは可能であるが、前者の“中心と周辺”をテーマとし、漢字の周辺にあって漢字と何ら

かの関連を持つ文字、すなわち“漢字関連文字”について述べる。

参考文献〈発行年順〉

西田龍雄 1987. 「巻頭地図」, 『書道研究 特集：漢字周辺文字の研究』(美術新聞社)1987:9。

西田龍雄 2001. 「東アジアの諸文字」, 『言語学大辞典 別巻 世界文字辞典』(河野六郎・千野栄一・西田龍雄編著), 東京：三省堂, 782-799 頁。

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所編 2005. 『図説 アジア文字入門』, 東京：河出書房新社。

吉池孝一 2009. 「東アジアの漢字関連文字」, 『現代中国への道案内Ⅱ』, 東京：白帝社, 85-110 頁。

(文責：吉池孝一)